

抄録

實質性注射ニ依ル甲狀腺腫ノ療法ニ就キテ

G. Krebs, Deutsche Medizinische Wochenschrift, 7. Juli, 1922, Nr. 27.

グルック及ビシエーンレンゼンハ沃度丁幾ヲ血管内ニ注射スル事ハ非常ニ危険ニシテ直チニ死亡スルモノトセラルガ此ノ觀察ハ誤謬ナリ。

余ハ二十九年間ニ互リ殆ド一〇〇〇例ノ甲狀腺腫ヲ實質性沃度丁幾注射ニ依リ所置シソノ治癒八〇%ニ及ベリナホ適應症ヲ確實ニ定ムル時ハナホ以上ニ及ブベシ。ソノ效果ハ中等度ノ増殖ノ時最も良好ニシテ非常ニ大ナル時ハ不確實ナリ。此ノ療法ノ例外トシテ注射後第一日目ニ起ルヲ常トスル呼吸困難ナリ。危険ノ最も大ナルモノハ血栓ニシテソレハ注意深キ操作ニヨリ除キ得ベシ。

余ハ一例トシテ二十四歳ノ中等度ノ甲狀腺腫ノ女ニ最初左葉ニ注射シ良好ナル結果ヲ得タリ。八日後〇・五瓦ヲ

右葉ニ注射シ患者ハ亢奮シ頸部及ビ頭部ノ疼痛不正脈等ヲ起セシモ半時間後ニハ症狀全ク去レリ。

注射方法トシテハ先ヅ可成大ナル注射針ヲ用ヒ直角ニ刺入シ一二滴注射シ、反應ナキ時ハ三十秒後ニ殘部ナル〇・五乃至一・〇瓦ヲ注射スベシ。注射ノ際又ハ直後ニ患者ハ多少ノ該部ノ疼痛ヲ覺エ又頸部頭部等ニ放散スルコトアルモコレ等ハ多クハ數分間ニシテ消退ス、注射度數ハ人ニヨリ異リ平均五乃至八回ニシテ部位ヲ變更シテ行フベシ。

要スルニ實質性沃度丁幾注射ハ中等大ノ増殖性甲狀腺腫ノ八〇%又ハソレ以上ヲ治療シ得。稀ニハ有害ナルコトアリ。併シ其害ハ甲狀腺摘出術ニ比シ僅少ナリ。摘出術ニ於テハ三%ノ死亡率ヲ算ス。且又甲狀腺摘出性惡液質、帝答尼、反廻神經麻痺等アリテ危険ナリト。(三宅抄)

狹心症、喘息症ニ對スル沃度「デイ

ウレタール」

Askanazy, Münch. Mediz. Wochenschr. 30. Juni, 1922, Nr. 26.

一八九五年アスカナデー氏ハ「ヂウレチン」ガ狹心症、

喘息症、慢性心臓性呼吸困難等ニ對シテ、持續長クシテ、速ニ作用スルコトヲ證明シ「テオプロミン」製劑ノ心臓ニ對スル作用ヲ經驗的ニ自ラ確證シテ、一九〇六年次ノ沃度「ヂウレタール」錠ヲ作レリ。

テオプロミン(ヂウレタール) 〇・五

重曹 〇・一

滑石 〇・一

沃度「ナトリウム」 〇・一

沃度「ヂウレタール」錠ハ患者ニ好マレ、不快ナル副作用ヲ有セズ。多クノ例ニ於テ使用後二―三日ニシテ輕快セシメ、他覺的症狀ハ消失シ、血壓ハ屢水銀柱二〇―三〇mm、或ハソレ以上モ下降セシム。此血壓下降ハ、少量ヲ長時持續的使用ニ關係スト。使用量ニ關シテハ、最モヨロシキハ、半錠宛ヲ、毎日二―四回ニ處方シ、重症ニテハ、毎日半錠宛ヲ六回、或ハ一錠ヲ三回ニトラシム。尙ホ胃疾患ヲ有スルモノニハ、同時ニ少量ノ重曹ヲトラシムト。更ニ最近同錠劑ヲ氣管、喘息症ニ應用シ、常ニ好結果ヲ來シ、治療上誤リタルコトナシト。同症ニハ、先ヅ最初毎日三回一錠宛ノ大量ヲトラシメ、後漸次一日

三回半錠宛ニ減量スベキヲ推奨セリ。尙ホ同氏ノ經驗ニヨレバ、腦血管ノ動脈硬化症及ビ腹部動脈硬化症ニ於テモ奏效スト。(狩野抄)

「コカイン」中毒ニ於ケル「クロール、カルチウム」ニ就テ

F. Fabry, Münch. Medizinische Wochenschrift, 30 Juni, 1922, Nr. 26.

カール、マイエル氏ハ、動物並ニ人類ニ就テノ「コカイン」中毒ニ際スル「クロール、カルチウム」靜脈内注射ニヨリ好結果ヲ得タル實驗研究ニヨリ「クロール、カルチウム」ハ、「コカイン」中毒ニ對スル反對藥ニシテ、呼吸中樞ニ亢奮的ニ作用シ、「コカイン」ノ麻痺的作用ニ反對ニ作用スルモノナリト考ヘタリ。

フアブリー氏ハ彼ノ臨牀ニ於テ、マイエル氏ノ記載ニ基キ、重症ナル「コカイン」中毒症ノ一治驗例ヲ報告シ、「コカイン」中毒ノ適例ニ於テハ、一分間少クモ一c.c.以上ヲ注入セザル注意ヲ以テ、十%「クロール、カルチウム」溶液五―十c.c.ヲ靜脈内ニ注射スベキヲ推奨セリ。即チ十

九歳ノ强健ナル一女子ノ扁桃腺摘出後ニ來セル重症ナル「コカイン」中毒症ニ於テ「カムフル」注射ノ間十%「クロール、カルチウム」溶液ヲ徐々ニ靜脈内ニ注射セルニ約二c.c.ノ注射、二分間ノ經過後ニ於テ既ニ著シキ效果ヲ現ハシ、次テ七c.c.ノ全量ヲ注射セルニ、全ク回復シ、急救シ得テ曰ク、重症ナル中毒症狀ヲ「クロール、カルチウム」注射ニヨリ除キ得ル事ハ疑ヒナシト。尙ホマイエル氏ノ記載ニ從ヒテ、注射液ノ靜脈周圍ニ漏ラサル、トキハ、回復シ難キ浸潤ヲ來スヲ以テ注意スベキヲ記セリ。(狩野抄)

夜尿ノ樟腦療法

Politzky, Deutsch. Mediz. Wochenschr. 2. Juni, 1922, Nr. 22.

夜尿ハ或ル症候の病象ナルガ故ニ其治療法ハ原因ヲ探究シテ之ニ適應スル治療ヲ施スベキモノナルモ此事タル甚ダ困難ニシテ今後一層ノ研究ニ俟ツベキモノ多シ。

今茲ニ多數ノ患者ニ適應シ且良果ヲ收メ得ル療法トシテ推賞スベキハ樟腦療法ナリ。最初ハ主トシテ臭化樟腦ヲ用ヒタリシモ夜尿患者ノ異常睡眠ニ對シ臭素ノ不良ナ

ル作用ヲ有セル又樟腦ノ不愉快ナル味及噁氣ヲ催スル等ノ缺點アルヲ以テ最近ニ於テハ專ラ之等ノ副作用ヲ除キ而カモ一層有效ナル樟腦製劑タル「カデコール」ヲ賞用スルニ至レリ。

「カデコール」ハ純樟腦ト膽汁酸トノ化合物ニシテ「アルカリ」性ナル腸液ニ溶解シ酸性又ハ中性ナル胃液ニハ溶解セサルガ故ニ煩ハシキ樟腦ノ噁氣ヲ發スルコトナシ。「カデコール」錠一箇中ニハ樟腦〇・一五瓦ヲ含有ス、小兒ニハ通常一日四錠ヲ朝晝各一錠宛夕二錠ノ割合ニ食後服用セシムルモノニシテ場合ニヨリ夕三錠ヲ與フルコトアリ、本療法ハ二週間毎日持續シ時トシテ數週ノ間隔ヲ以テ反覆服用セシム、尙ホ特ニ一般反射機能ノ亢進セル場合ニハ乳酸「カルチウム」ヲ併用ス。

「カデコール」ノ效果ハ他ノ藥劑の療法ニテ何等奏效ナキ場合ニアリテ夜尿ヲ恢復又ハ輕快セシムルコト屢々ナリ。

夜尿ニ對スル樟腦ノ藥物學的作用ハ次ノ三方面ニ存ス

一、泌尿生殖器殊ニ膀胱領域ニ於ケル感受性過敏ニ對スル鎮靜作用

二、循環器ニ對スル一般興奮作用
三、大腦ニ對スル調和的興奮作用

(柴抄)

皮膚色素ノ除去法

Kromayer, Deutsch. Mediz. Wochenschr. April 21, 1922, Nr. 16.

クローマイエル氏ハ夏日斑、小痣、雀斑ノ如キ色素ヲ有スル表皮ヲ除去スルニ、真皮ヲ害スル事ナク單ニ其色素ヲ有スル上皮組織ノミヲ除去スル目的ニ齒科技術ヲ應用セリ。即チ先ヅ浸潤麻醉又ハ冷却麻醉ノ後、齒科醫ノ使用スル適當ナル形ノ砥石ヲ以テ齒科醫ノ行フ如クニシテ表皮ヲ擦滅ス。而シテ癩痕ヲ避クル爲、真皮迄達セザル様ニ輕ク壓迫スルモノニシテ其際漿液性浸潤又ハ溢血ヲ起セシ時ハ綿ヲ薄ク當ツレバ乾燥シテ痂皮ヲ生ズ可ク是ヲ其儘放置スレバ、其痂皮ハ十日乃至十四日ニシテ去リ、其跡初メハ赤キモ二箇月後ニハ癩痕消失ス。此ノ方法ハ大ナル雀斑ニ最モ適當セリト。(佐藤抄)

雜報

●會員動靜

敘勅五等授瑞寶章

從五位勅六等 吉田 坦 藏

岡山醫科大學附屬醫學專門部教授從七位 奧島貫一郎

敘高等官六等

岡山醫科大學助教授 奧島貫一郎

八級俸下賜

(七月二十六日)

安宅巖裝委員海軍軍醫中尉 吉 栖 生 一

免本職補吳海軍工廠附

(七月二十五日)

敘勅六等授瑞寶章

從六位 太田 九三 男

九州帝國大學助教授從七位 金子廉次郎

任岡山醫科大學教授兼岡山醫科大學附屬醫學專門部教授

敘高等官六等

岡山醫科大學教授 金子廉次郎

岡山醫科大學附屬醫學專門部教授 金子廉次郎

岡山醫科大學附屬醫院內科醫長ヲ命ス

(七月二十九日)